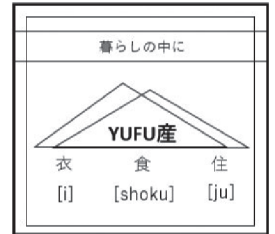


伝えたい 由布のもの NO. 2



〈取材・文〉
岡田鹿乃子
Kanoko Okada

東京都出身。東京都で進学・就職を経て2020年8月に由布市の地域おこし協力隊に就任。移住定住担当として活動しています。

● 問い合わせ

総合政策課

☎ 097-582-1158



▲ YUFU暮らしを伝えるInstagram "yufu-okoshi"をはじめました。ぜひご覧ください。

自らの手で建てた木の家

この地にあるたくさんの由布産のもの。それらを知ることや暮らしの中に取り入れること、そしてそれが由布市の人やものを応援することにつながれば、少しずついい循環が生まれるのではないかと思います。そんな想いから「伝えたい由布のもの」のインタビューをはじめました。

第2回「伝えたい由布のもの」は、庄内町大津留で植木屋をされている堀伸太さんの「自らの手で建てた木の家」です。

広島県出身の堀さんは東京で庭師への弟子入りを経て、大分県で庭の設計に3年ほど携わりました。その間に自分たちの暮らしが世の中の問題を引き起こしていると感じたこと、子どもや自分たちの将来に考えを巡らせたことがきっかけとなり、由布市でゼロから暮らしを立て直すことに決めます。世間ではSDGs（持続可能な開発目標）が国際社会の共通目標として掲げられ、よく耳にするようになりました。堀さんはまず家族が安全で幸せに、そして環境に負荷をかけない持続可能な暮らしをすることをめざしています。第一段階は家をつくる、第二段階は安全な食べものをつくる、第三段階は料理を究める…その第一段階の「自らの手で建てた木の家」が今回紹介する「伝えたい由布のもの」です。

堀さんの家づくりは、もともとあった古い蔵を壊すことからはじめ、構造を学び、自身の家づくりに活かしています。家づくりは初めてという堀さんは、由布市で伝統構法の家づくりをしている大工さんから技術を学び、地域の方に協力してもらいながら、少しずつ、5年かけて家を建てました。家が朽ちたとき、できるだけ自然に還る素材で作りたいという想いがあり、家を作る素材にこだわりました。スギの木を使い、金物に頼らず木を組みながら建てているので丈夫な上に見た目にも美



▲ 堀さんご家族と木の家。玄関には大津留の地で育ったヒノキをつかいました。

〈伝えたい由布のもの〉

詳細は由布市地域おこし協力隊のFacebookページでも紹介しています。ぜひご覧ください。

しいものです。壁は竹の骨組み・土壁・漆喰で仕上げ、床の断熱材にはたくさんの燻灰を敷き詰めています。天然素材で建てられた家の屋根では植物を育てており、それがまた愛らしい佇まい。

光が差し込む南向きの大きな窓からは棚田の風景を見渡すことができ、木の香りに包まれた家は五感も和らぎ住み心地が良さそうです。ご家族で話し合いながら、想いをつめこみながら5年もかけて作った家に住むなんて、どんな気持ちなのでしょうかと想像してしまいます。

暮らしの基盤である家を自らの手でつくり、そして地域のことを考えられている堀さん。ゆくゆくは由布市に移住を考えている方の家づくりや改修などのお手伝いをし、地域を活性化したいとお話しされています。いまは大津留まちづくり協議会に所属し、地域振興部長としておつるマーケットの企画もしています。堀さんの考え方や活動がまったホームページもおすすすめです。堀さん、ご家族の皆さん、ありがとございました！